

西アフリカでエボラを発生させたのはアメリカ：リベリア の科学者

By Timothy Alexander Guzman

Global Research, October 17, 2014



グアテマラでの梅毒実験の歴史：いかにアメリカ先導のチームが中米で人体実験を行ったか

リベリアの科学者で、元リベリア大学農学・森林学部の植物病理学教授 Cyril Broderick 博士は、西側、特にアメリカが、西アフリカでエボラを発生させた張本人だと言っている。ブロデリック博士は、リベリアの Monrovia を本拠とするデイリー・オブザーバー紙に載せた独占記事で、次のように主張している――

アメリカ国防総省 (DoD) はエボラの人体実験を資金援助しており、この実験は、ギニアとシエラ・レオネでエボラが発生するほんの数週前に始まっている。連続して報じられているところによると、DoD はカナダの製薬会社 Tekmira に 1 億 4,000 万ドルの契約金を与え、エボラの研究をさせている。この研究作業には、健康な人間に致死的なエボラ・ウィルス注射を感染させることが含まれていた。したがって DoD は、エボラ流行が 3 月に西アフリカで宣言される少し前の 2014 年 1 月に始まった、「最初の人間による」エボラ臨床実験 (NCT02041715) の共同研究者としてリストされている。

米国防総省や他の西側諸国が、アフリカ人にエボラ・ウィルスをつつしていた、直接の張本人だなどということがあるだろうか？ ブロデリック博士は、米政府がシエラ・レオネの Kenema という町に研究所をもって、彼が“ウィルス熱バイオテロリズム”と呼ぶもの

を、彼らはそこで研究していると主張している。それはまた、彼が“西アフリカのエボラ発生の中心地”として認める町でもある。これは事実だろうか？ ブロデリック博士は陰謀論者なのだろうか？ 彼はこう言っている——「より貧しい国々のより恵まれない人々、特にアフリカの市民たちを保護するための積極的な行動が、緊急に求められる。これらの国家はアメリカや大多数の西側諸国のように、科学的にも産業的にも進んでおらず、生物兵器として戦略的に考案された、ウィルスまたはバクテリアの遺伝子組み換え種のほとんどの発祥地になっている。」彼はまた、こう言って重要な問いかけをしている——「最も不安なことは、米政府がシエラ・レオネで、ウィルス出血熱バイオテロリズムの研究所を運営していることだ。他にもこういうものがあるのだろうか？」

ブロデリック氏の言っていることは本当のようだ。何といても、米政府が長い間、恐ろしい病気実験を人間に対して行ってきたことは、歴史が示している。一つの例はグアテマラでの実験である。1946年から48年にかけて、トルーマン大統領下の米政府は、グアテマラ大統領 **Juan José Arévalo** や彼の保健役人と協力して、この実験に参加した 5500 人以上のグアテマラの人々のうち、1500 名以上の兵士、娼婦、囚人、また精神病者にさえ、梅毒やその他、淋疾、軟性下疳（げかん）といった性交でうつされる病気を、故意に感染させた。特にひどいのは、病気をうつされた被験者の誰一人として、事前に同意した者はなかったことである。この事実を発見したのは、医学史家でウェルズリー大学教授 **Susan M. Reverby** で、これはボストン・グローブ紙によって、2010 年、“ウェルズリーの教授の戦慄すべき発見：グアテマラにおける梅毒実験”（**Wellesley professor unearths a horror: Syphilis experiments in Guatemala**）として公表された。そこにはこの発見に至る経緯がこう書かれている——

あるかび臭いペンシルベニアの記録文書を漁っているうちに、ウェルズリー大学のある教授が息の止まるような発見をした——米政府の科学者たちが 1940 年代に、被験者の許諾なしに行った梅毒や淋疾の実験で、何百人というグアテマラ人を故意に感染させていた。医学史家 **Susan Reverby** は、4、5 年前、悪名高い“**Tuskegee 梅毒研究**”の調査を行っていて、偶然この文書を発見し、後にこの発見を米政府の役人に知らせた。

この非倫理的な研究は、まさに昨日まで、公的に発表されなかった。昨日、オバマ大統領と 2 人の内閣書記官が、グアテマラ政府と国民に向かって謝罪をし、過去の過ちを決して繰り返さないと約束し、その当時は、医者が患者の同意なしに実験をすることが珍しくなかったと言った。

レヴァビー教授の発見の後で、ボストン・グローブ紙によれば、オバマ政府は当時の大統領 **Alvaro Colom** に謝罪したようである——

昨日、オバマは、グアテマラの **Alvaro Colom Caballeros** 大統領に電話で謝罪し、オバマのスポークスマンは記者たちに、この実験は「悲劇的」であり、米国はこれによって被害を受けた方々すべてに心から謝罪したい、と言った。

国務長官ヒラリー・クリントンは、木曜日夜、**Colom** に電話をかけて、このニュースを彼に打ち明けた。グアテマラ大統領との会話で、クリントンは「このような非難すべき研究が行われ得たことに対し、個人的な憤りとともに深い遺憾の意を表明した」と、西半球担当国務副長官 **Arturo Valenzuela** は言った。



グアテマラでの研究は、アメリカ国民保険局医師の **John Cutler** によってリードされたが、彼はまた 1930 年代に始まり、論争を引き起こした “**Tuskegee (タスキーギー) 梅毒実験**” にもかかわっていた。研究者たちは、ペニシリンと呼ばれる抗生物質グループの、患者への効力を研究しようとした。梅毒や他の性病の防止と治療もまた、実験の中に含まれていた。彼らは抗生物質で治療されたが、83 名以上が死んだ、と **BBC ニュース** は、2011 年、生命倫理問題大統領委員会議長 **Amy Gutmann** 博士の声明発表につづいて伝えた――

委員会によれば、約 **5,500** 人のグアテマラ人が、1946 から 1948 年の間に行われた研究に巻き込まれた。このうち約 **1,300** 人が、梅毒、淋疾、あるいは、もう一つの性交による病気、軟性下疳に意図的に感染させられた。そしてこのグループのうち、約 **700** 人だけが何らかの治療を受けた。委員会が調べた記録文書によれば、**5,500** の被験者のうち、少なくとも **83** 人が **1953** 年までに死んだ。

この報告に対するワシントンの反応は茶番劇である。グアテマラ政府に対してなされた謝罪は、宣伝のためである。当然ワシントンは、過去において、一般大衆に怖がられた政府基金による研究所で行われた、恐ろしい病気の数々の人体実験のことは知っている。米政府は、人々への数知れない医学実験を、グアテマラのみならず、他の国や自国領内でも行うという罪を犯している。ボストン・グローブの報告が言っているように、タスキーギー梅毒研究は1932年から1972年の間に、米公衆衛生局によって、アフリカ系米人間における治療されない梅毒の“自然の進行”を研究する目的で行われた。米公衆衛生局とタスキーギー研究所は1932年、協力して梅毒感染を研究するために、アラバマ州 Macon 郡から600名の貧しい物納小作人を募集した。

しかし記録文書によると、彼らの少なくとも400人はこの病気を持っていたが（彼らは自分が本当に梅毒をもっていることを知らされなかった）、残りの200人はもっていなかった。彼らは無料の医療と、食事と、この研究に参加した見返りに、無料の埋葬保険まで与えられた。記録文書は、彼らが“悪い血”をもっていて、これは梅毒の他にいろんな医学的条件をもっていることを意味すると、教えられたと明かしている。タスキーギーの科学者たちは、参加者の病気を治療することなしに観察を続け、また梅毒や他の性病治療に効き目があるとわかっている、ペニシリンについての情報を、それを必要とする参加者たちには隠していた。被験者たちは、自分たちが米国政府から無料の治療を与えられていると思込み、一方で、テストを行っているこの同じ政府によって意図的に騙されていた。ワシントンは、恐ろしい病気について人体実験がなされていることを、完全に知っている。グアテマラ政府もまた、ボストン・グローブによれば、この梅毒実験のことは知っていた――

グアテマラ政府の代表は、自分の国もまた調査をして、この国の役人たちの犯罪行為の有無を調べると言った。実験記録は、グアテマラ政府の役人たちがこの実験を完全に知っていて、それを許可し、大量のペニシリンと引き換えにそうしたかもしれないことを示唆している。

しかし米国民保健福祉省は、「1946 - 1948 米公衆衛生局性感染症予防研究についての報告書」を公表し、梅毒実験の行われている間、グアテマラで何が起こったかを認めざるを得なくなった――

“治療を受けない梅毒についてのタスキーギー研究”の歴史的調査を行っていたウェルズリー大学のスーザン・レヴァビー教授は、最近、米公衆衛生局医学官でありタスキーギー研究者の一人でもあった、故ジョン・カトラー博士の埋蔵されていた論文を発見した。これらの論文は、グアテマラの高度に病気に罹りやすい人々が、意図的に性感染症に感染させられた、もう一つの米政府に支援された非倫理的研究を説明していた。1946

から 1948 年の間に行われたこの研究は、カトラー博士の上司たちの知るところで行われ、「パン・アメリカン保険機構」からグアテマラ政府省庁に与えられた助成金を基金としたものだった。この研究はそれまで発表されていなかった。

米政府は 62 年も遅れて自らの悪事を認めた。ブロードリック博士が書いたことは、いかなる意味でも陰謀論などではない。アメリカ政府はこれまでずっと、バイオテロリズムに関わってきた。グアテマラはその好例である。

故意に人々を梅毒に感染させた米政府によるグアテマラの苦難の後で、西アフリカ諸国は、エボラと戦う米政府の行動について、きわめて懐疑的なはずである。イリノイ大学法学部の Francis Boyle 教授は、オバマ政府の西アフリカでの行動に疑問をもっている。ロシアの RIA Novosti は最近、ボイル教授をインタビューしたが、そこで彼はこう言っている――

米政府諸機関は、リベリアとシエラ・レオネの研究所で、防衛的な生物戦争研究と称するものを行ってきた長い歴史をもっている。ここには、今、エボラのアメリカへの侵入を管理する中心機関になっている「疾病管理予防センター」(CDC) も含まれている。

なぜオバマ政府は、軍隊をリベリアへ急いで派遣したのだろうか――死んでいくアフリカ人に医療をほどこす訓練を、彼らは全く受けていないのに？ どうやってザイール・エボラが、1976 年に最初に確認された、約 3,500km 離れた土地から、西アフリカへやってきたのだろうか？

これはワシントンにとって“よい”質問であるが、一般大衆は果たして返事をもらえるだろうか？ 近いうちにはもらえないだろう。なにしろグアテマラの梅毒実験が、米政府でなく医学史家によって、公衆の目に触れるようになるまでに、62 年以上かかったのだから。